

大きくくりなまとまりでの評価



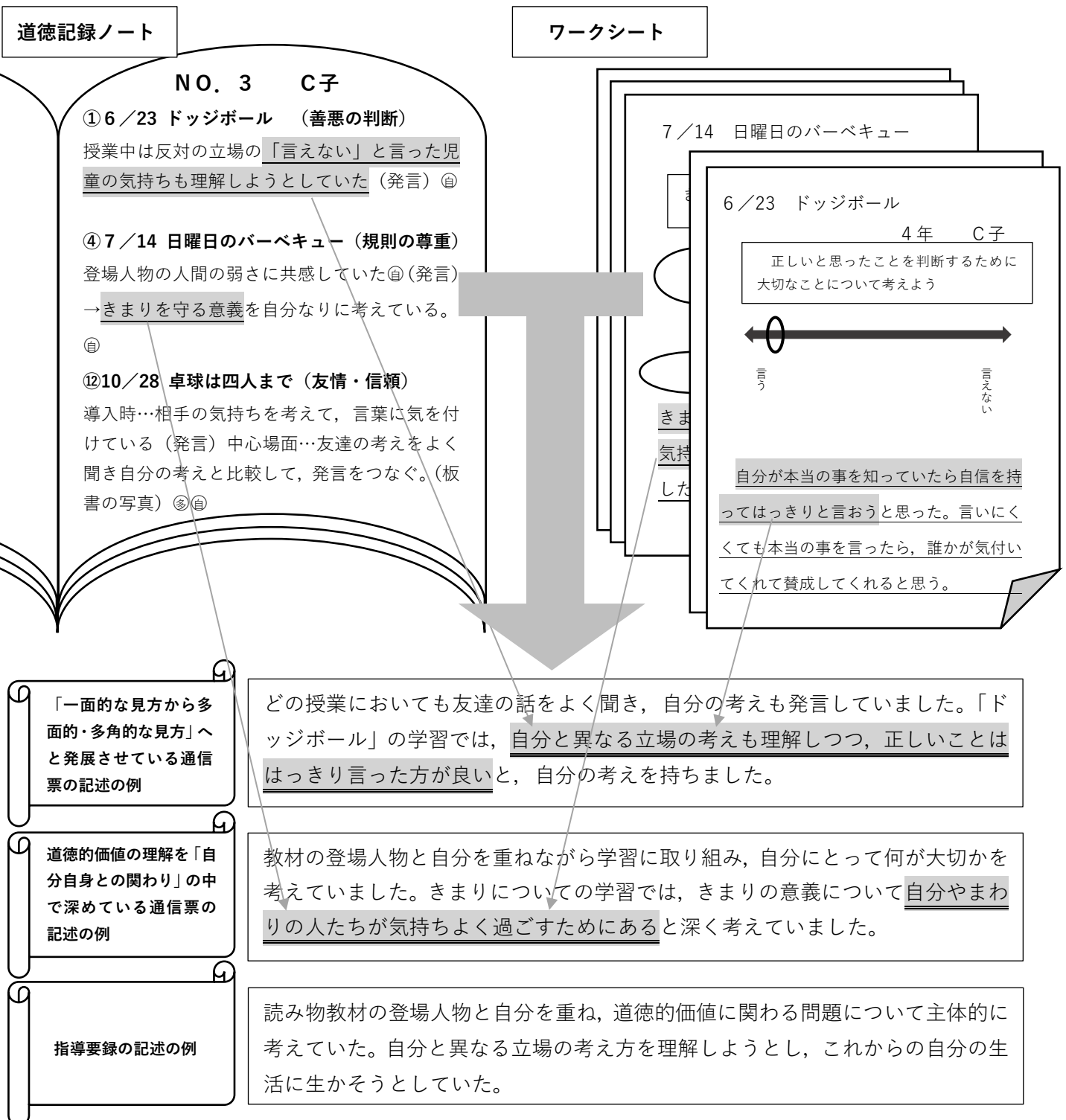
蓄積した学習状況の記録を基に、評価につなげるときに大切なことを教えてください。



授業の記録を残した道徳記録ノートや児童生徒が書いたワークシートを基に、児童生徒がいかに成長したかを積極的に認め励ます視点から評価を行うことが大切です。

■授業の記録を残した道徳記録ノートとワークシートから評価につなげる例

▷授業中、積極的に発言する児童





話すことや書くことが苦手な児童生徒には、机間指導の際に聞き取りを行い、その場面で認め励ますようにしました。そうすることで、自信を持って発言できるようになった児童生徒もいます。授業後、忘れないうちに見取ったことを記録に残しておくことが大切だと感じました。

▷授業中、発言が少なく、書くことが苦手な児童

道徳記録ノート

ワークシート

NO. 4 D男

④7/14 日曜日のバーベキュー（規則の尊重）

声掛けをして、終末「社会のきまりはみんなで使うものだから大事にしよう」と記述し、みんなが笑顔でいられるようにと発言。㊦

⑩10/28 卓球は四人まで（友情・信頼）

導入時…友達がいる良かったのは友達に良いところをほめてもらったとき（発言）授業中は、教材の中の「しゅん」の気持ちになり、判断を誤った根拠を様々な視点から考えていた（発言）㊦

⑬11/4 雨のバスでいりゅう所で（規則の尊重）

友達の話聞き、みんなのことを考えるといいんじゃない？とつぶやく。㊦

前時まで、発言や記述がほとんど見られなかったので、授業中に聞き取りを行い、認め励ましたところ、発言につながった。

11/4 雨のバスでいりゅう所で

10/28 卓球は四人まで

4年 D男

友達と関わる時に大切なことについて考えよう。

とおるに悪いことしたな

とおるは手伝ってくれたのに…

楽しめなかった「しゅん」くん

言わなければ良かった

後かい

友達と関わる時は後かいしないようにしたい。

「一面的な見方から多面的・多角的な見方」へと発展させている通信票の記述の例

授業中は自分が教材の登場人物の立場ならどんな気持ちになるのかを考えながら発言するようになりました。「卓球は四人まで」の学習では、友達と関わる時は、相手を傷付けないように、話し方に気を付けようと考えていました。

道徳的価値の理解を「自分自身との関わり」の中で深めている通信票の記述の例

「きまり」についての学習では、教材の内容と自分の生活を照らし合わせながら考えていました。「日曜日のバーベキュー」の学習では、きまりはみんなが笑顔で気持ちよく過ごすためにあると考えていました。

指導要録の記述の例

読み物教材の登場人物に自分を置き換えて考えていた。道徳的価値を理解することの難しさを感じた上で、大切なことを考えようとしていた。